

SSKR まうんてんえこお NO.316

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/

山彦作業所（就労継続支援B型）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
Email : ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

山彦相談支援事業所（相談支援）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX(03)3970-2365
Email : ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

やまびこ第二作業所（就労継続支援B型）

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL(03)6904-3411 FAX(03)6904-3413
Email : ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所（相談支援）

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL&FAX(03)6906-9803
Email : ymbk2-soudan@xvb.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井（就労継続支援B型）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812
Email : yamabiko@shakujii-work.jp

チャレンジワークやまびこ（就労移行支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865
Email : challenge@shakujii-work.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所（相談支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650
Email : soudan@shakujii-work.jp

やまびこ三原荘（共同生活援助）

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320
Email : miharaso@mue.biglobe.ne.jp

目次

- 表紙 新年の挨拶
P2 山彦・やまびこ第二 近況
P3 ワークショップ・
チャレンジワーク 近況
P4 三原荘・相談近況
P5 チャレンジワーク
P6 署名のお願い
P7 やまびこのペン(職員より)
P8 やまびこのかぜ(ワーク)・
新人職員紹介

年頭のあいさつ

理事長 坂元 信幸

昨年の年頭の挨拶の文章で、「よもや21世紀も20年以上経過して国同士の全面戦争が起ころなど予想もしてませんでした。この厳しい現実には戦争の中で過酷にしている障害者のことを思うとその悲痛さと我々の無力さを感じざるを得ません。一日も早く終わらせたが我々にできることは一体何なのか答えが見いだせない状況です。」と書きました。23年中に終わることを望んでいましたが、しかし現実には戦争が終わるどころか、新たな戦争が始まってしまい、世界を揺るがせる事態となっています。大国のエゴがぶつかり、国連はその機能を果たせなくなっています。明るい未来をどう描けば良いのか、解決が見いだせない状況です。

2023年を振り返ってみると、3年以上にわたり我々の生活を制限してきた「新型コロナウイルス」が感染症法上の5類となり、基本的には以前の日常生活に戻ってきたことになりました。しかし、コロナ感染がなくなつたわけではなく、山彦福祉会でも感染者が断続的に見られ、その都度対応に追われました。

また、23年は「地球沸騰」と語られるほどの気温の上昇が見られ、11月になつても25度以上の日があり、春と秋が短くなり四季ではなく二季に近い環境になってしまいました。戦争と温暖化という人類が総力を挙げて対応しなくてはならない問題ですが、様々な利害の絡みの中で身動きができない状態になったように思われます。どうも暗い話が先行してしまいがちですが、

山彦福祉会では長年の懸案であった建物問題が解決し、新たな一歩を踏み出すことができました。基盤の整備が整ったことで次には実践の充実が大きな課題となってきます。利用者支援の充実が言うまでも無く、地域にとって必要とされる活動を進めていくことも重要な課題です。自分たちの存在意義をもう一度考え直すという年にできればと思います。

2024年4月には報酬改定が行われる予定です。「介護職を離れる人は、働き始める人を上回り、深刻な人手不足」といわれ、12月6日に出された「令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な方向性について」のなかの冒頭で「障害福祉分野における賃上げをはじめとする人材確保への対応は喫緊かつ重要な課題であり・・・必要な対応を行うことが重要な課題である。」とその危機意識が述べられています。障害福祉は12%報酬増と報じられていますが、危機意識を述べた割にはこの数値はいささか低すぎはしないかと言つのが率直な感想です。

年頭の挨拶が報酬の話になってしまい申し訳ありませんが、困難な状況の中でも運営の安定と職員の育成に力を入れ、ひいてはそのことが利用者の支援の充実につながり、地域の中で必要とされる役割を果たせる事を目指し、小さいながらも確実な足取りを刻む、そういう年になれるように務めていきたいと思っております。



山彦作業所近況

山彦作業所の年内最後の1大イベントで12月27日に自治会主催のお疲れ様会がありました。メンバーは毎年この日を楽しみにしています。今年はセブン・イレブンの『ごちそう膳楓くかえで〜』税込み1944円の豪華お弁当を選択しました。スイーツにはシュークリームも付いてお腹いっぱいです。昼食後は恒例のビンゴ大会。毎年大盛り上がりです。豪華な景品も用意されており、皆大興奮。今年の運は誰の手に・・・的なノリで最後まで楽しみました



【←最後はみんなで1本締めです。】



お疲れ様会も終わり、冬季賞与のお渡しです。平均23000円と夏季賞与よりも多くなりました。所長から「お疲れ様でした。」と冬季賞与を渡してもらい、最高の2023年を締めくくる事ができました。
(村上)

やまび第二作業所近況

4年ぶりのバスレク

11月17日（金）は4年ぶりのバスレクでした。朝からの雨で天候には恵まれませんでしたが、天候を感じさせないほどの、皆の笑顔と笑い声に包まれた1日でした。行き先は群馬県の富岡です。サファリパークやガトーフエスタハラダに立ち寄り、お昼はすき焼き御前を食べてくる、そんなコースでした。

バスの中はビンゴゲームやカラオケ等々と、沸きに沸いた時間でした。今回はメンバーの参加は20名で、その内の10名の方



が初めてでした。そんな中から、こんな声が聞こえてきます。「とても楽しかった。次も必ず行く！」「大勢で過ごすのは苦手だったけれど、こんなに楽しく過ごせるとは・・・自分が知らない自分を知ることが出来た」等々と、口々に「楽しかった」の声があふれています。この文章を書いている12月に入った今でも、思い出すたびに、こちらが笑顔になります。感染症に気を付けてのバスレク。あれから2ヶ月経ちますが体調を崩された方はいなかったので一安心です。

行きたくても都合が合わずに行けなかった人、迷って行けなかった人等々と、次回は一緒に行けたら良いな・・・と思っています。

何よりも、当日のために何度も打ち合わせを行った実行委員の方達には感謝です。私自身、久しぶりということもあるのかも知れませんが、「バスレクって、こんなに楽しかったんだ・・・」と、改めて感じさせられた1日でした。この文章が印刷されて発行される1月下旬頃、そのとき、第二作業所では「次はどこに行こうか？」「また行きたい」「今度は一緒に行こうよ」等々と、皆が口々に言いながら、盛り上がり始めていますことでしょう。
(池田)

ワークショップ石神井 近況

2023年をふりかえって

ワークショップ石神井の2023年は新しいことにチャレンジした1年でした。

作業

新しく取り組んだ作業が4つあります。

一つ目はショッピングサイトAmazonに商品を納品する作業です。様々な商品を検品してラベルを貼り、梱包して発送する仕事です。大きなものから細かなものまで、大変ではありますが色々な商品が届けられるので楽しく作業ができています。

二つ目は駐車場清掃です。区内にあるコインパーキングの草取りやゴミ拾いなどを行います。夏の時期に行ったので炎天下の中の作業が大変でしたが、清掃作業が終わったときの満足感は心地良いものでした。

三つ目はアパートの草取りです。駐車場清掃と同じく炎天下の中ですが、依頼主様が働きやすい工夫をしてくださったので、生き生きと作業を完了することができました。

最後は洋服の毛玉取りです。これ

はまだお試しの段階なのですが、古着をアップサイクルするための前段階として毛玉を取る作業をしています。細かい毛玉を取るのに苦労しますが、古着がリメイクされて活用されると思うと、とてもやりがいがある作業です。

レクリエーション

レクリエーションとして初めて参加したお祭りが3つあります。

一つ目は照姫祭り。石神井公園で毎年行われる大規模なお祭りです。綿菓子のお店はありますが、レクリエーションとして初の参加でした。二つ目は練馬祭り。名前の通り練馬を代表するお祭りです。

三つ目は都市農業フェスティバル。全国の都市農業が盛んな都市が、農産物を出店するお祭りでした。

照姫祭りと練馬祭りの日はあいにくの天気となりましたが、参加したみんなで屋台でお昼ご飯を食べることができて楽しかったです。都市農業フェスティバルはとても良い天気で光が丘公園を散歩することもできました。

2024年はコロナ前の活動を少しずつ復活できればと思います。

(大越)

チャレンジワーク やまびこ近況

チャレンジワークでは毎年法人内の事業で取り組んでいる「カタログ販売」の商品仕分け、配達業務を行っています。カタログはカレンダー・雑貨と食品の種類があり、各事業所で注文した品物をチャレンジワークのメンバーで仕分けをし、配達までを担います。

メンバーはまず、作業手順書に従い、届けられた品物から納品書をもとに商品名と商品の数が合っているかを確認します。商品を確認したら注文書に書いてある商品をお客様ごとに仕分けをし、袋詰めを行います。最後に商品を一階へ運び、車に乗せてお届け先まで向かいます。お届け先に着いたら挨拶をし、指定された場所に商品を降ろして完了です。

作業過程の商品の仕分けでは、個人のプログラムとは異なり他のメンバーと協力することが求められます。相手への声掛けの

仕方や自分の意見を伝えることなど、仕事をする上で必要なコミュニケーションを取る機会になり、メンバー同士の会話も活発になります。どうすれば相手に分かりやすく伝えることができるのか、相手の考えや気持ちを理解しようとする姿勢など、自然とコミュニケーションのスキルも身に付いていきます。

メンバー同士で協力して一つの事を成し遂げるカタログ販売の仕分け作業はコミュニケーション方法を学ぶ良い機会となっています。

(高橋)



仕分け作業の様子

やまびこ三原荘 近況

食事サービースについて

やまびこ三原荘では、これまで毎週火曜日と木曜日の食事サービース（朝食、夕食）と土曜日の昼食サービースを朝食200円、昼食200円、夕食350円で提供を続けてきました。

しかしながら最近の物価高騰の波を受けて朝食サービースと昼食サービースを9月から250円に変更しました。夕食サービースは、現状維持のまま350円で提供を続けていますが、今後は値上げを検討していかなければいけなくなるかもしれません。



夕食350円で提供
ボリューム満点の親子丼とポテトサラダ

入居者の中には物価高騰にまだついていけてないと感じる方もいて、今まで買えていた金額で買えなくなつたものは購入をためらったり、以前の食事が変わってきた

り栄養のバランスが悪くなっているのではないかと心配になることもあります。職員としては、三原荘の安くてボリューム満点の食事をなるべく長く続けられたらと思いますが、物価がしばらく戻るとはなさそうなのでこれに慣れていくしかないのかもしれない。

新入居者

次に、12月に三原荘本体（通過型）に女性が1名入居されました。自己紹介をお願いしたので皆さんにご紹介します。

12月に三原荘に入居しました。た祐美子（仮名）といいます。簡単な自己紹介となりますが、私は1年半新宿のグループホームにいました。訳あって三原荘に入居することになりました。なんといいのかわからないのですが、大泉病院からの流れ者です。これから3年という期間ですが三原荘でお世話になります。みんな楽しく静かに生活したいと思えます。俳句を作るのが趣味なので最後に一句詠みます。

「流れ流れて

たたずむ私 冬の道」
みなさんどうぞよろしくお願
いします。

（青

相談支援事業所近況

今回は個人的な感想を主にした報告をさせていただきます。相談支援事業所の開所から10年が経ちました。常に悩みや葛藤、事業所の統合等々と考えてきた10年でした。ちよつと解放されたいな・・との思いで文章を書いています。

私は10年前に、ちょうど体調を崩して入院を繰り返していました。そんな時に、タリミング悪く、相談の業務に就きました。正直言って、怖くもありました。知らない人・機関から電話がくる。知らない障害もある・・。そしてまだ制度として定まっていなかったために、何をどうして良いのかも手探り。

電話がなると、一瞬、ひるんだ後に覚悟を決めて電話をとっていました。相談員の多くはそのような状況だったことから、お互いに慰め合っていました。それとは、まったく逆に1日電話が来ない日もありました。「何をしたら・・。」そうだが、区が発行している「障害者福祉のしおり」を覚えよう。知らない障害の勉強をしよう・・。

と過ごしてきました。新しい事務所、消しゴム、鉛筆、パソコン等々。何も連絡がないと、使うことなくそれは待機している状態となっていました。一体自分は何をしていますんだろう？との思いにもなっていました。

あれから夢中でやってきた相談の業務です。振り返れば多くのことを教えてもらった日々です。励ましてくれた周りのスタッフ。声をかけてくれた人たち、そして頼ってくれた利用者や家族、細かなアドバイスをしてくれた関係者の方々等々。自分も頑張ってきたのですが、周りへの感謝を感じるようになってい

はじめの内は、「知らないです」「分からない」という言葉は使いづらかったです。今は堂々と「知らないです」と言えるようになってきました。この言葉がきっかけと言えるようになったら一人前ですよ。と10年前に言われたことがあります。「分からない。知らないです」が言いたくなくて、必死に覚えて勉強していた時期があったから、今は言えるのかな・・と思っ

（第二相談 池田）

チャレンジジワークやまびこ 就労卒業生より

法人内の就労継続支援B型から
就労移行支援を利用し、今年度一
般就労されたメンバーの物語です。

福祉の力

「支えられて

生かされている」

林 昭

私は本来、車の設計や町工場で
ネジを作る製造業の技術職の仕事に
就きたくて大学は理系に進学しまし
た。ですが、その道で食べていくに
は将来の見通しが持てずに中退して
しまいました。そのとき人生で初め
てと言つていいほどの挫折を味わ
いました。

大学中退後は家業の精肉店の手伝
いをしていました。

5年間働き詰めをしたところで統
合失調症を患ってしまった。

「自分はそんな弱い人間ではない。」
と思いたくて、その当時は薬を飲ん
だりたり飲まなかったりしていまし
た。

それからまた約10年の歳月を経て
両親や兄から、「うちもあと5年く
らいしたらお店を廃業する。」とい
う話が家族の間で持ち上がりまし
た。「あんたは次の仕事どうするんだい。」
と言われて、散々次男の私に家業の

仕事を手伝ってもらって社会に放り
出すような真似をされて、その時は
「なんて身勝手な家族なんだ。」と
思いました。それを機にやぐれた
私は自暴自棄とも言える行動を重ね
ました。時には他者に力づくで止め
られることを経て、ようやく自分自
身と向き合うことが出来るようにな
りました。しかし、それからという
もの後悔の念と今までの自分を思い
返し、「全てをリセットしたい」旨
の言葉を家族にも漏らすようになり
ました。世間からも白い目で見られ
ているような気がして視線恐怖症に
なり電車にも乗れなくなっていました。
毎日、悲観的な考えだけの
殆ど引きこもりの状態になってしま
いました。



これまでの自分を咎められのだろう
と恐る恐る作業所に向かいました。
ところが所長さんの第一声は「大変
な思いをしましたね。」でした。そ
の所長さんの穏やかな人柄に惹かれ
てワークショップ石神井B型作業所
への入所を決意致しました次第です。



作業所での生活は、入所当初から
職員の方々を始めとした他の利用者
さんたちに作業でわからないところ
は親切丁寧に仕事の仕方を教えてい
ただきました入所前実習から約3年
経ったところで、両親が家業を廃業
したため次は就労移行支援チャーレ
ンジワークやまびこにステップアップ
して障害者雇用での就職を目指すよ
うになりました。



きょうされん第47次国会請願署名・募金運動 ご協力お願いします

今年も署名活動の時期がやってきました。国会請願署名とは障害のあるかたやそこで働く人たちの思いや要望を直接国会議員の方々へ請願署名として伝えるものです。この署名が厚生労働委員会で採択され、本会議でも採択されることで新しい法律にもつながる大事な署名です。また、私たちの思いを国会議員の方々に直接手渡しできる貴重な機会でもあります。ぜひ、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。いただいた募金は請願活動資金やきょうされん活動など福祉の向上に遣わせて頂きます。添付の署名用紙にご記入の上、事業所まで郵送してください。署名のご記入の際は、「〃」「々」等は使わず、すべてお書き下さるようお願いいたします。

2023 2024
12月 4月



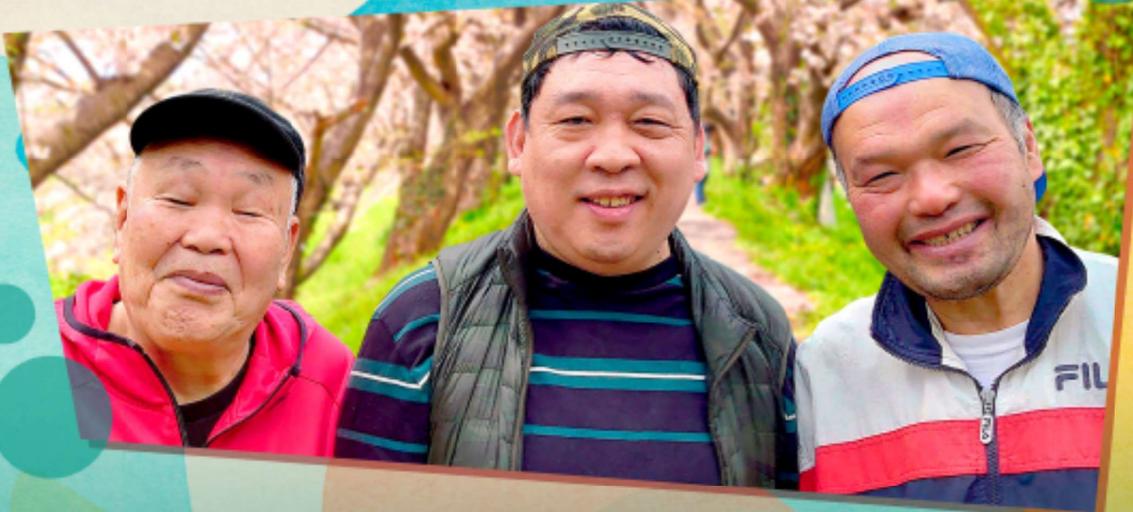
あ
た
り
ま
え
に
は
た
り
き
え
ら
べ
え
く
ら
し
を

きょうされん 第47次

国会請願署名・募金運動 全国キャンペーン

▲ 流野が保る「たましの郷」(東京)

▼ 北から 田代 孫二・鈴木 大野・横山 幸代 / ひつぎ作 事務所 (静岡)



障害者権利条約を地域のすみずみに

障害のある人びとを支える
制度づくりのための
署名・募金にご協力ください



落合 聡子



福榮 剛



竹下 泉子

●とりくみ法人・事業所様

社会福祉法人
練馬山彦福祉会

わたしたちも応援しています

■キャンペーン報告本部

社会福祉法人事務局 〒164-0201 東京都練馬区野井7-6-41-16 練馬福祉協議会4F
TEL: 03-5385-2223 FAX: 03-5385-2299 E-mail: sskr@shinobu.or.jp

やまびこのペン

やまびこ三原荘 草場 啓介

最近、食について考えることが多くなった。きっかけはどうか。ば肥満を改善することが出来るか。だった。はじめは自転車に乗ってサイクリングを楽しみながら体重を減らすことを考えた。これは有酸素運動の効果もありサイクリング後に体重が1〜2キロ減るの。効果絶大だった。しかし、運動後の飲食がとてもおいしく気が付く。とその日のうちに元の体重に戻ることもしばしばあった。

そんな時、ふと思ったのが旬の食べ物を楽しみながら少量をおいしく食べるのが健康にもいいんじゃないかと。今は1年中食べることが出来る食材が多くなり季節感が無くなった物も多くあるが、一般的に旬の食べ物は季節感を楽しむことができる。ともに、食材も身近なものも多い。そのうえ旬の時期は栄養価も高く価格も安いように感じる。

食とは不思議なもので食事をする環境によって味が変わるように感じる時がある。山・海や旅行で食べる料理は家で食べるよりもおいしく感じたり、みんなと楽しく過ごす時、思い出しに食べる料理もおいしく感じる。また、落ち着かない場所、食慣れた味を食するほうが美味しい時もある。人の味覚とはそういうものではないかと思う。そう考えると、今後外出した時やスーパーに買い物に行くときにはそれを意識すること、季節感を楽しみながらおいしさを安く買えるのではないかと楽しみが増えた気がする。

先日、練馬スパゲティという練馬大根を使ったソウルフードがある。聞いた。早速食べてみよう。と思いついた。早速ネットで調べてみると、レシピはたくさん出てくるが、練馬でそれを提供している店がまったく出てこない。これは、給食や家庭で食べられていただけの本当の地元の人のためであるソウルフードなのかとも考えてしまう。最近



練馬スパゲティ（練馬区のホームページから）

練馬の代名詞「大根」をたっぷり

レト口系の喫茶店に行くとコーヒーを飲んだり軽食をゆっくり食べることを楽しむに感じているので、そのうちどこかで練馬スパゲティに偶然巡り合えたらうれしいなと思う。

今までは有名な店やおいしいと言われる店に行くことはあったが、これからは旬やご当地グルメも意識して食べていきたいと思う。そう考えていくと食の幸福感と何を食べたかより、どこで食べたか？誰と食べたかが大切だ。と思うようになった。今後は、感謝の気持ちと一緒に出会ったときには、感謝の気持ちは一緒に旬や地域の食材に思いをはせることで自分の人生を豊かにしてくれると思う。

やまびこのかぜ

今回はチャレンジワークやまびこから、就労されたメンバーの声をご紹介します。就労卒業された方々との交流会「チャレワの輪」でのヒトコマです。

就労交流会は毎年、夏の時期に開催し、異動した職員も参加することで当時のメンバーも気軽に参加しやすい雰囲気を中心に掛けています。バラエティに富む飲み物選別選手権(じゃんけん)から始まり、在籍メンバーは就労に関する質問を、卒業生は実際に働いてみて思ったことなどのアドバイスなど、活発な意見が飛び交い、毎回盛り上がりを見せています。では、卒業生(元メンバー)のコメントを

就労インタビュー

- ・ 一部紹介していきたいと思えます。
- ・ **なぜそのお仕事に就こうと思った？**
- ・ 仕事をすることで興味を持った
- ・ 好きなことを仕事にしたいと思った
- ・ **就労に向けてのアドバイス**
- ・ 真面目にやれば誰かが見てくれる
- ・ 最初パニックでもいずれスムーズに
- ・ 少しずつで、いずれなんとかなる
- ・ 大勢で苦手でも過ごしやすい場所を
- ・ チェックしておく
- ・ **仕事でのやりがいって？**
- ・ 励ましてもらったり、ありがとうと
- ・ 言ってもらったり、とても嬉しい
- ・ 仕事量多いけど達成感、充実感ある



就労交流会
チャレワの輪

・ お客さんから頼まれたことに応えられたとき

体調や感情コントロール

- ・ 体調もしんどい日がある。ペースを落とすとか、上司に伝える
- ・ 本当にしんどかったら休憩を。冷静になることが大事
- ・ 休みの日と通勤日とで寝る時間のルーティーンを決めている

実際に就労された方々の言葉にはとても力があります。この機会に就労イメージの深まりや、安心感を持たれるメンバーが居ます。お話をされる方、聞く方も皆が就労への意識を今一度思い返してみる。そんな場所や機会があってもいいですね。チャレンジワークを通じて出来た輪はこれからも大きく強く、いつでもここで待っています。

(伊東)

新職員あいさつ

山彦作業所 中込 由衣

私の出身は山梨県の道志村という電車も通らない、スーパーやコンビニもないとでも田舎で育ちました。

中学では、女子の部活が卓球かソフトボールという究極の選択でソフトボールをはじめました。高校では親元を離れて部活動の寮に入り、寮生活をしながらソフトボールをしていました。専ら黒焦げに日焼けしながら毎日練習していました。大学では、千葉の学校進学しました。児童学科に入学し、資格取得のために保育園や幼稚園 福祉施設の実習を経験しました。

大学入学当初は保育士として子どもたちに関わる仕事に就くことを目指していましたが、福祉施設の実習を沖繩にある知的障害者施設で受けさせていただき、障害者と関わる仕事がしたいと思ひ、就職活動を始めました。今考えると、少し沖繩・ジクもあたたかもしませんが、その実習が私の障害者に対する考え方を大きく変えるきっかけとなりました。

編集後記

元旦に起こった能登半島地震では、大きな被害となつてしまいましたね。今回の紙面には間に合いませんでしたが、一日も早い復興をお祈りいたします。今年もよろしくお願ひいたします。

(山彦 渡辺)

そして、就職を機に東京にきました。田舎者の私にとっては、憧れの東京で就職することができて、ワクワクしながら新生活を迎えたことを覚えています。

前職は、障害者支援施設の知的障害者フロア5年間、身体障害者フロア移動して7年間の約12年間貴重な経験させていただきました。

プライベートでは、5年生の息子と1年生の娘がいます。二人とも野球チームに所属していて、週末は野球三昧の生活をしています。いつの間にか、子どもたちの野球観戦が私の趣味となり、暑い日も寒い日も週末はグラウンドで過ごすことが私の日課となりました。

1年ほど仕事からは離れていましたが再就職活動をするときにやはり障害者と関わる仕事がしたいと思ひ、山彦作業所で働かせていただくことになりました。作業所の経験はなく、わからないことばかりですが、今はメンバーのみなさんにたくさん元気をもらいながら日々過ごしています。またまた、慣れなことも多いですが、楽しい時は一緒に笑い、辛い時には一緒に考え、一人一人に寄り添った支援ができるように心がけていきたいと思ひます。これからよろしくお願ひ致します。

編集人
 社会福祉法人 福山区 練馬区
 練馬区 練馬区 練馬区
 東京都 練馬区 練馬区
 富士見台 2-19-9
 TEL(03) 3998-5023

発行人
 障害者定期刊行物協会
 東京都世田谷区 1-17-102
 祖師谷 3-1-102
 ヴェルデ 102号